

1978・6 NO.136 Vol.12 NO.6

●昭和53年 4月20日印刷

●昭和53年 6月1日発行

●編集・発行者 竹島紀元

●編集スタッフ

塚本雅啓／松尾定行／宮原正和
日比 彰／沖 勝則

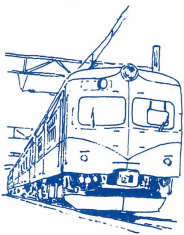
●アートディレクト 岡田徹也

●発行所

(株)鉄道ジャーナル社

〒102 東京都千代田区飯田橋4-8-6
日産ビル 電話03(264)1891・1892
振替口座 東京 9-82820

●印刷所 凸版印刷株式会社



国鉄のタルミ事故がまた起きた。運転士が寝すごして電車が運休したのを 車両故障のせいにしたという。傷害などの重大事故でなかったのは幸いだが、現場の気のゆるみがあとを絶たないのは残念である。また「タルミ」も困ったものだが、車両に罪を着せたことはさらに悪い。安全は輸送業務の最大の使命である(国鉄の安全綱領)はずであり、車両故障は鉄道として最も恥ずべきことであるうえ、特に「ブレーキ故障」の発生は鉄道の信頼性を大きく失わせる要因となるからだ。深く反省してほしい。さて、今月の特集は新潟地区と上越の鉄道である。東京と新潟を結ぶ鉄路は明治37年に長野まわりの今の信越本線ルートで全通した。そして昭和6年、日本最長を誇った清水トンネルの開通により上越ルートが開かれ、雪深い越後地方を東京に直結する重要な役割を果たすようになった。この「上越国境に架ける鉄路」は時代とともに成長し、複線電化も完成してエル特急くときをはじめ多数の優等列車が走っているが、激増する輸送需要をまかないきれず、新しい動脈・上越新幹線の開業が待たれている。雪に強い新幹線が登場する日も遠くはないであろう。

定価530円
〒60円

1978-6

もくじ

- 7 レールウェイ・レビュー 5 新幹線建設は慎重に
- 8 ニュース・ファイル(国鉄・私鉄・海外鉄道の動き)
- 14 車両基地

●特集 上越国境に架ける鉄路

シリーズ・日本の鉄道⑥ 15 新潟平野 残雪

青木栄一
瀬古龍雄
菅沼清美

- 32 早春の越後路めぐり 伊藤東作/沖 勝則
- 45 上越国境に架ける鉄路 種村直樹
- 63 上越新幹線のルートと建設状況 編集部
- 66 旅客営業からみた上越線の現状と将来 須田 寛
- ☆新・RJメカニズム⑥
- 68 清水トンネル
- 70 新潟を走った旧型国電の16年 瀬古龍雄

鉄道車両`系列`シリーズ⑥

- 76 165(153)系急行形直流電車 編集部
- レールウェイ・トピックス
- 88 四国急行の新しいヘッドマーク
- 106 近郊形電車のマイナーチェンジ 松田清宏
- 107 動き始めた新型車両

- 90 開業せまる`夢の通勤鉄道` 編集部
- 98 ポスターと書物のドラマ⑥ 佐々木桔梗
- 新・ヨーロッパの鉄道-5
- 100 時刻表と旅のデザイン(前) 山之内秀一郎
- 108 トップ・アングル
- 111 てつどう・ぎつがく 急行列車の格差 本島三良
- 119 車両とともに30年⑮ 田邊幸夫
- 124 パキスタンの交通事情③ 安沢 明
- 131 タブレット
- 134 次号予告/社告/乗務員室

ブルー・トレイン

◆ワイドレンズ(112)◆RJクイズ/鉄道友の会だより(113)◆鉄道記事ざっくばらん/魚眼(114)◆Q&A/ズームレンズ(115)◆書評/新刊紹介(116)◆外国趣味誌紹介(117)◆前方ちゅ〜い!/伝言板(118)

表紙/上越国境にいだむ181系くとき——カメラ・荒川好夫